

食道切除術を受けられる方へ

		患者ID	氏名		様		発行日:				
手術前日	手術当日術前	当日術後	術後1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7~10日目	11日目~退院	
1月13日			1月14日	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日	1月20日 ~	1月24日 ~	
目標	<input type="checkbox"/> 手術の目的、全身麻酔後の経過が分かる <input type="checkbox"/> 不安を医療者に伝えることができる <input type="checkbox"/> 呼吸訓練ができる	<input type="checkbox"/> 予定通りに手術室に行くことができる	<input type="checkbox"/> 医師・看護師の介助のもと歩くことができる <input type="checkbox"/> 医師・看護師の介助で口腔ケアができる <input type="checkbox"/> 痛み止めで痛みが軽減できる			<input type="checkbox"/> 自力で痰を出すことができる <input type="checkbox"/> 自己で口腔ケアが実施できる			<input type="checkbox"/> むせることなく食事を摂取できる	<input type="checkbox"/> 指導のもと腸の管より栄養または白湯を自己注入することができる <input type="checkbox"/> 退院後の生活の注意点が理解できる	
<input type="checkbox"/> 苦痛時医療者に伝えることができる											
治療			点滴	→			食事・栄養剤の量により徐々に減量・終了します				
			足のマッサージ(静脈血栓予防)	→			歩行が開始できたら静脈血栓予防の機械を除去します				
			尿の管	→			管が抜けた後、数日間尿を袋に貯めます				
			胸の管	→			排液が減少したら管が抜けます				
			首の管	→			排液が減少したら管が抜けます				
			鼻の管	→			鼻の管を抜きます				
			痛み止めの入った背中の中	→			痛みを錠剤の鎮痛剤でコントロールできれば管が抜けます				
			心電図	→			問題がなければはずします				
			酸素	→			酸素量は徐々に減らしていきます			傷のホッチキスを抜きます	
検査	採血を行います		採血・レントゲン	→			定期的に検査をします				
			医師の指示により、血糖を適宜測定します	→							
			体重を毎朝測定します	→						飲み込みの検査があります	
検温	検温を1日1回行います	1~2時間毎に検温します	2時間毎に検温します	→			状態に応じて1日に2~4回検温します				
食事	夕食後は、食べ物を摂取できません 水分(水・お茶)は飲めます	朝6時まで飲水可能です 6時以降は禁飲食となります	禁飲食	→			朝の飲み込みの検査後、医師の判断により食事が開始になります			傷の具合と、飲み込みの状態をみながら食事の形態や量を徐々に増やしていきます	
栄養				→			腸に入っている管へ栄養剤を注入します			食事だけでは足りない栄養を腸に入っている管で補います	
清潔	入浴し、髪の毛を洗ってください 爪も切ってください	男性の方はひげを剃ってください 紙の長い方はピンを使わず、 ゴムでまとめてください 入れ歯を外してください	口の中は、看護師がきれいになります 口が渴いたらスポンジプランで濡らします	→			身体を拭いて着替えます			胸の管が抜けた次の日からシャワー浴ができます	
				→			ご自分で、毎日歯磨をし口腔内を清潔に保ちましょう				
活動	特に制限はありませんので、体力維持のため散歩などでベッドから離れてお過ごしください	床ずれと肺炎予防のため看護師が2時間毎に身体の向きを変えます	肺炎の予防と全身の回復のため、初めは看護師が付き添いベッドに座る事から始めます 毎日、リハビリ科による呼吸訓練や筋力訓練も行ないます	→			一般病棟に移動しても積極的に歩くようにしましょう				
呼吸訓練	コーチIIを使用し、呼吸訓練を実施してください		術後の状況により、痰を吸引するために気管支鏡を行ないます	→			肺炎予防として、痰の喀出を促すために処置室で吸入をしましょう(1日3回)				
			コーチIIを使用し呼吸訓練、深呼吸や咳払いを十分に行なってください	→							
説明	看護師から入院生活、手術前後の経過や必要物品について説明します 担当医から手術の詳しい説明がありますのでご家族も同席ください 手術までに麻酔科、リハビリ科、口腔外科の受診があります	手術後は集中治療室へ入ります ご家族に担当医から手術の説明をします ご本人には麻酔からしっかり覚めた手術当日、または翌日に説明します	状態について、適宜ご本人へ意思より説明します	→			看護師が、退院後に備え栄養剤や腸の管が詰まらないように白湯を入れる方法と管の固定方法を説明します その後練習を行ない、ご自分でできるようになります			栄養士が退院後の食事について説明します 看護師が退院後の生活について説明します	